

## 機関紙（★全面特集）

1992.7~1995.12

### 土曜講座通信

第1号~第18号

★「大震災について、いま思うこと」1995.2

1996.11~2005.3

### どうよう便り

第1号~第85号

★市民が作る「改訂版・科学技術基本法」  
★「遊星より愛をこめて〜幻の第12話を求めて」  
★「紙はこれからどうなるのでしょうか？」  
★「低線量放射線被曝のリスクを見直す」

2005.4~2006.11

### 市民科学 ver.1

第1号~第15号

★「インタビューシリーズ 市民の科学をひらく」  
★連載「出生前診断 イギリスからの報告」全10回  
★連載「関係性の食学に向けて」全5回 コメ、油、砂糖、大豆

2007.1~2009.1

### 市民科学 ver.2

新装版 1~20号

（「市民科学」で35号まで）  
★連載 JST 助成研究に関連しての専門家インタビュー（全5回）

2009.2~2010.4

### 市民科学 ver.3

新装版 21~28号

（「市民科学」で43号まで）  
★連載「科学技術コミュニケーションを問う」（全5回）  
★携帯電話と脳腫瘍

2010.5~2013.12

### 市民研通信 ver.1

第1号~第21号

★連載「環境エッセイ」(全11回)  
★チェルノブイリ25年目「ウクライナ政府報告書」

2014.1~

### 市民研通信 ver.2

第22号~

以上通巻で  
18+85+15+20+8+21+1  
となり2014年1月時点で  
計168号

## 市民科学講座&イベント

1992年より毎年数回から10回

22 教育はもういらぬ? (佐々木賢、松田博公)

34 自宅出産の経験から (真鍋淳子)

46 環境問題とエリート主義 (戸田清)

61 アジアの地域医療の現場から (スマナ・バルア、色平哲郎)

★特別 現代日本の社会と教育 (SEF との共催) (K.ウォルフレン)

69 森は地球のお医者さん (4周年記念講演) (宮下正次)

87 映画「ふれあうまち 向島・オッテンゼン物語」(熊谷博子)

★100 21世紀の科学・技術を考える (池内了)

102 戦後日本の優生政策 (松原洋子)

104 原爆加害国になった日本 (笹本征男)

★連続講座「お金と楽しく付き合うために」(海野みづえ、金岡良太郎、向田映子ほか)

130 ノーマ・フィールドさんと語り合う

★連続講座「めぐる水・不思議な土を知る」

131 埼玉県・小川町 有機農業&自然エネルギー見学案内 (小林一朗)

136 素人のための疫学入門 (上田昌文+小牧史枝)

137 日本の戦後民主主義とアメリカ、〜ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』(上・下、岩波書店)を読む(湘南科学史懇話会とのジョイント)

140 米国の軍事科学と日本の基地問題(梅林宏道)

144 キューバの有機農業を訪ねて (吉田太郎)

153 自然共生建築を求めて―住まいの快適さをエクセルギーから考える(宿谷 昌則)

★特別企画 ユージニー・スコット博士を招いて「進化論と理科教育―米国における進化論と創造論の対立から考える」

特別講演「急増するアトピー性皮膚炎:IT時代のストレスとハリー・ポッター」(木俣肇)

1 市民科学研究室 NPO 法人化記念シンポジウム 「次世代環境づくりと市民科学―科学メディア、食、出産医療から考える」(林衛、鈴木賀世子、大谷ゆみこ)

3「食」から見える社会の変え方(金丸弘美)(食環境ジャ  
4 非電化は愉しい―“新しい豊かさ”を創るために(藤村靖之)

16「人知れず忍び寄る輸入依存型社会の恐怖」―安ければ・効率さえ良ければいいのか?国際輸送の実態に迫る!!  
―(渡邊豊)

★24 体験型ワークショップ 「東京直下型地震〜あなたはどうか備えるか?」

★シリーズ・東日本大震災 <全8回>

★60 国際シンポジウム「低線量被曝の真実 チェルノブイリ事故から26年」(ラリーサ・S・パーレヴァほか)

## 研究助成

●2002年4月~2003年3月  
(財)消費生活研究所からの2002年度「持続可能な社会と地球環境のための研究助成」により「携帯電話ならびに基地局がもたらしている電磁波リスク への政策的対応に関する研究」

●2004年12月~2007年11月  
JST「社会技術研究システム・公募型プログラム」助成により「生活者の視点に立った科学知の編集と実践的活用」

●2005年1月~2005年12月  
(財)日産科学振興財団からの2005年度「理科・環境教育助成」により「科学館における「科学と社会」のプログラム開発および実践と、社会における 科学館の役割の提案」

●2007年11月~2011年3月  
JST 社会技術開発センター「科学技術と社会の相互作用」助成により「先進技術の社会影響評価手法の開発と社会への定着」東京大学らと共同研究

●2008年4月~2009年3月  
子どもゆめ基金による「子ども料理科学教室・実験プログラム」の開発

●2009年8月~2009年12月  
「地域発:がん対策市民協働プログラム」助成(日本医療政策機構 市民医療協議会)による「“がん予防クーポン”導入に向けた参加型ワークショップの実施」

●2010年3月~2012年2月  
(財)科学技術融合財団(FOST)による助成により「生活習慣改善ゲームによる健康リスクコミュニケーション手法の開発実践」

●2013年4月~2015年(継続中)  
文部科学省「原子力基盤研究イニシアティブ」助成による「原子力施設の地震・津波リスクおよび放射線の健康リスクに関する専門家と市民のための熟議の社会実験研究」のうち放射線部門を東京大学から委託

## 研究チーム・プロジェクト

(色をつけたのは現在活動中のチーム)

2000 電磁波プロジェクト  
→**環境電磁界研究会**

2001 **科学館プロジェクト**  
**科学技術評価プロジェクト**

2002 科学技術総合学習プロジェクト  
(**ワークショップ“科学技術と社会”**)  
**藤野に集うプロジェクト**

2003 食の総合科学プロジェクト  
→**食の総合科学研究会**  
「子ども料理科学教室」

生命操作プロジェクト  
→**生命操作未来身体研究会**

2004 **宇宙開発再考プロジェクト**

**低線量被曝研究会**

2005 ナノテクリスク研究会  
→**ナノテクと社会研究会**

2008 **科学コミュニケーションツール研究会**

2010 **住環境研究会**

## 主だった成果・出版物

冊子『**大学問題アンケート**』2000

代表・上田の連載「**生命へのまなざしと科学**」(隔月刊『ひとりから』全14回)2000

論文「東京タワーからの放送電波の強度分布と周辺地域の電磁波リスク」『EMC』(168巻2002年4月)

上田の連載「**ケアと科学の狭間から**」(月刊『家族ケア』全7回)2003

『**全国科学館抜いテーマ調査報告書**』2004

渡部麻衣子『**選んで生む社会**』2005

翻訳『**携帯通信と健康 2000年~2005年**』2006

インタビューシリーズ「**市民の科学をひらく**」(全10回、『市民科学』に連載)2006

加納誠,松原洋子,矢間秀次郎,村松秀,宿谷昌則,鈴木賀世子,榎木英介ほか,大谷ゆみこ,笹本征男

『**子育てのやさしい環境** vol.1~4,『子どもと電磁波』(babycom と共同で)2006

報告書『**生活者の視点に立った科学知の編集と実践的活用**』2008

翻訳・編集『**エンハンスメント論争 身体・精神の増強と先端科学技術**」(社会評論社2008)

上田の連載「**今月の環境ニュース**」(月刊『企業診断』)2009~連載中

上田の連載「**基礎から理解する電磁健康影響**」(隔月刊『CS化学物質過敏症支援』)2010~連載中

共同制作報告書「**フードナノテカー食品分野へのナノテクノロジーの応用と諸課題**」2010

報告書『**原爆調査の歴史を問い直す**』2011

上田『**わが子からはじまる 原子力と原発きほんのき**」(クレヨンハウス・ブックレット)2011

## 運営関連

◆1992 目黒区自由が丘にて学習塾「自由学舎」の厚意により、教室を無償で会場として使用

・市民科学講座の開始

・機関誌の発行

・ほぼ毎年 夏の時期に「合宿」を実施

◆1998 西新宿の「カトリック社会問題研究所」の集会場を、O.シェガレ神父の厚意により無償で会場・図書室として使用

・研究チーム(当初「〇〇プロジェクト」、後に「〇〇研究会」)の発足

・2002年~ 毎年12月に料理講習会とセットにした「クリスマス会」を開催

・1999年~ スタッフの2ヶ月交代による「運営委員」体制

◆2003 文京区本郷6丁目にて事務所開設

・2003年~ 代表・上田の専従

・市民科学談話会の開始

2005年3月 NPO 法人化

・2005年~ 専従事務スタッフ雇用

・2008年~ 食の総合科学研究会による「子ども料理科学教室」

・2008年~ データベース機能を備えた現在のホームページを開設(成果物、掲載記事をすべてアーカイブ化・無償提供を開始)

・2006年~ 毎年冬に「味噌づくり講座」

・上田はJSTサイエンスアゴラ実行委員(2006年から4年間)や東京大学科学技術インタープリター養成プログラム特任教員(2005~07)

・オンライン入金システム PayPalを導入

◆2010 文京区千駄木3丁目に事務所移転(もと「谷根千工房」事務所)

・事務局 週4日フルタイム勤務体制

・福島原発事故以後、放射線リスク関連の多数の講演や講座、親子放射能ワークショップなどを実施/環境省、「大地を守る会」、「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」などとの提携事業

・2014 20周年記念イベント「豊かな地域をつくる〜「消費」と「所有」を超えて、科学・技術を生かすために〜」

・ワンコインサポートの開始